

民間検査機関だより

No. 24

平成 5 年 1 月 20 日 発行

新潟県民間環境
検査機関協議会



カタクリとギフチョウ

毎年冬になると気象台の長期予報が気になり、巷では今年こそ大雪だと予報屋がもっともらしく言う。

雪が少なければ大した交通渋滞にも合わず、列車も止まらない代りにスキー場は大弱り。

せめてスキー場だけでも雪が降ってくれればと思います。

立春を過ぎれば雪解けも間近。生き物たちの活動がまた始まる。

春を告げる女神——それはギフチョウ。

平成4年度 新潟県民間環境検査機関協議会事業報告

- 平成4年6月24日 通常総会
平成3年度の事業及び収支
決算報告
平成4年度の事業計画及び
収支予算を決定
- 平成4年6月1日 環境月間記念行事「環境フ
～30日 ェア」 「環境月間記念トー
ーク」(主催:県、新潟市、
協賛:当協議会他)
- 平成4年10月13日 環日本海環境協力会議(主
～16日 催:環境庁、県、協賛:当
協議会)
- 平成4年11月19日 視察研修会
～20日 (財)東海技術センター(名古
屋市)
- 平成4年11月27日 研修会
新潟大学工学部教授
大熊 孝
通商産業検査所
化学工業品課長
田坂 勝芳
- 理事会は随時
- その他
 - ◎県理化学検査技術職員研修会への参加
 - ◎県理化学的試験検査精度管理調査への参加
 - ◎県生物検査技術職員研究集会への参加
 - ◎平成4年度建築物環境衛生管理研修会への参加

会員が行っている主な業務

環境関連調査

- 海域海洋に関する事業
- 各種建設に係る調査
- 河川、ダム関連調査
- 工場排水に関する調査
- 飲料水に関する調査
- 騒音、振動調査
- 悪臭調査
- 地盤沈下に係る調査
- 廃棄物に関連する調査
- 大気関連調査
- 土壌汚染調査

環境影響評価 (環境アセスメント)調査

- 公有水面埋立
- 発電所(各種)
- 各種工場及び公共施設
- 焼却場
- し尿処理施設
- 港湾
- 飛行場
- 公共下水道等
各種の立地建設に係る
調査
- リゾート開発
(スキー場・ゴルフ場)

「健康であることのよさこび」

計量検定所長 宮 島 弘

昭和10年に三条の片田舎に生まれ、現在まで大した病気もしないで健康でいられることにいつも感謝しております。

学生時代、中学校と高校を皆勤したことを今でも覚えております。しかし、就職試験の二次試験で『結核』と診断され、不合格となった時は本当にショックでした。その後、すぐ県に採用していただきましたが(勿論健康診断OK)、それから現在まで毎年職場で実施される健康診断も総て異常がなく、よるこんでいる次第です。当時本当に結核であったなら、今までに少なくとも一度位は入院加療が必要だったことと思いますが、それもなく、1年に一度か二度位風邪のためお医者様の薬をいただく程度です。

最近では技術革新をはじめ、経済・文化等々色々な面でめざましい成長、発展が見られ、生活環境も変わり食生活も向上し、平均寿命が延びる一方、成人病等が急速に増加しております。人生80年時代といわれている中であって、今後は自分の体は自分で管理していかなければならないことは勿論、年令と共に体に変化してきていることを忘れずに、

残り少ない余命を大切にしていきたいと思っています。

職業がら県内の色々な会社、工場、事業場等へ計量管理指導に出かける機会が多くありますが、どこへ行っても私は自分の会社で使用している計測器は自分の会社で管理し、いつも正確な計測器で正確に測定するようにと話してきております。絶対に他人まかせはいけな。会社の経営も人生と同様な苦勞が数多くあると思います。世の中の変化にいつも対応できる状態に管理していきたいと心掛けています。

何だか私の自慢話を記してしまい、まとまりのない内容で本当にお恥かしい次第ですが、自慢のついでに今一つ記してみたいと思います。私が世の中のため、人様のために自信をもって協力してきた献血、現在までの回数『65回』です。これも健康であればこそ出来ることと思いますが、今後は100回を目標に努力し健康管理に努めたいと思っております。

夏の思い出

(財)二市北蒲原郡総合健康開発センター 石 井 亨

外出の仕事を終え、検査室に戻ってくると課長から【「民間検査機関だより」の原稿はあなたの番よ】と言われ、何を書いたらいいものか迷いつつ家路へ。その日の夕食を食べていたところ、子供に、「お父さん、夏のキャンプが楽しかったから、それがいいよ。」と言われ、外に思い当たることも無かったので、夏の一時を思い出しつつ「民間検査機関だより」の紙面をふさぎたいと思います。

自分は、学生時代から今で言うアウトドア生活が好きで、夏休みになるとテントなどを持ち出し

キャンプに行っていました。

昨年は山の方へ行ったので今年は海にしようと、小4と小2の息子とで8月のある土曜日にテント、食糧、バーベキューコンロ、テーブル、炊事道具等々いっさいがっさいを車に積み込み出発しました。

30分位で目的地の海水浴場に到着し、早速テントを張りバーベキューの準備等の支度に取り掛かりました。普段、家では何も手伝う事のない我が息子ども、この時ばかりは目を輝かせながら、一

生懸命に自分の出来ることを探しそれに取り組んでいました。水平線の彼方に夕日が沈もうとする頃に、ビールとジュースで乾杯をし、炭火でほどよく焼けた焼き肉、焼き鳥等をほうばり、今日一日の事、明日の予定などを語り合いながら再び乾杯。

そのうち辺りも暗くなり、子供達お待ちかねの花火大会の始まりです。始まると同時に、この日、この時の為にとっておいた様な笑顔が一面にはじけ、本当に楽しそうでした。一晩明けて、我が親子の朝食はなんと朝からカレーライスです。(しかも水分が多少多くなり過ぎた。) そんなシチューの様なカレーライスでも、「こんなカレー家では食べられないからおいしいよ。」というあたり、まさに大人以上の心配りだと思いき嬉しくなった。

日中はさすがに夏の日差しです。海に浸かり、

肌を焼く、を繰り返すともうランチタイムです。今度は失敗ないようにカップ麺にしました。(本当は計画どおりです。)

昼食が終ると、子供達は家に帰ったそうなそぶりを見せ始めたので帰り支度を始めたところ、「お父さんはゴミをきれいに片付けて、意外と綺麗好きなんだね。」と言。「今は、地球がどんどん汚れていくから小さなゴミでも捨てないで、いつでも泳げるような海や自然を大事に守ろうや。ゴミだらけにするのは、いつも人間なんだから。」と言い返して帰路についた。

次のキャンプの時は、子供達自らゴミを持ち帰るべく後片付けをしてくれることを念じながら、彼らと同じ目線で過ごした一時は日ごろ見えにくい部分が見えたりして、私自身結構楽しませて貰った。

新春雑感

日揮化学㈱新津事業所環境測定センター 樺 沢 慶 三

私は、触媒製造会社に勤務しておりますが、勿論、主業務は濃度計量証明であります。

客先に伺うと、「おまえさんのところは、何を造っているんだね。」と聞かれる。かなりの難問である。ファラデーや寺田虎彦先生のような方が、『触媒の化学』という本を書かれていればなあのため息が出ることがある。

産業分類にしても、細分類まで行っても『触媒工業』という項目はなく、現在は無機化学工業であるが、有機触媒はないかと言われると自信がなく、その他の化学工業になるんだと独り合点しています。

「まあ、仲人みたいなもんですわ。触媒がないと魚油からマーガリンも、石油からのナイロンも、ほかのプラスチックも出来ないんですわ。」実際、あらゆる化学反応は触媒体がなければうまくゆかないわけで、頭のよい人は触媒の有効利用を考える話です。

測定もさる事ながら、基準をオーバーすると対

策の相談を受けることがあります。

ある照明硝子製造会社さんの話です。

大きな滞留層を設置したがうまくゆきません。実際に廃れをメスシリンダーに採ってみましたが、1ヶ月経っても清澄になりません。ガラスの研磨粒子が非常に細かい事がわかります。小規模事業所ですので、大設備は出来ません。廃れを、凝集剤をいろいろと変えてテストしてみましたが、3種類の薬剤を使って、最後と思われたものが見ついにきれいに沈降しました。少量の濃度の濃い研磨廃液のみ処理し、水洗液には色素も鉛も少ないので、そのまま放置するようにしました。処理層はドラム、ろ過機はこし袋です。こんな装置では利益もありませんが、少しは公害防止に協力出来たかなという満足感が残ります。

仕事に対して興味を持ってやっていけることが、一番の薬であると思う今日この頃です。



榎クラレ中条工場分析センター 長谷川 彰

今から30年くらい前の私が高校生のある夏、級友に誘われて尾瀬に行ったことがあります。メンバーは、級友二人とその父親、それから女性が二人(私より年上だったと記憶している。)の計6人でした。

話は急で、終業式の後出かけるということになり、急いで帰宅し準備して汽車に乗りました。その夜は大湯の級友の家に泊まり、翌朝、電発道路(現シルバーライン)をトラックの荷台に隠れて乗り、銀山湖を船で渡って鷹の巣を経て渋沢温泉、三条の滝を通り尾瀬が原で泊まりました。当時、私には名前も知らない草花がたくさん咲いており、「尾瀬は良いところだなあ」と思ったものでした。その頃は、今はど人は多くなく尾瀬沼には汽船が行き来しており、なにやら幻想的な雰囲気になっていたものでした。これが私の初めての山歩きの経験でした。

その後、級友と2~3回近郊の山に登ったりしましたが、本格的に山歩きを始めたのは中条に来て数年経ってからでした。それも、スキーで骨折事故を起こし、リハビリの一環として足腰を鍛えるために始めたもので、けっして山の魅力にとりつかれて始めたわけではなくスキーを滑りたい一心からでした。しかし、幸か不幸か、私の周りには山好きの先輩、後輩がおり、それに引きずられてズルズルと山歩きをはじめた次第です。以来、飯豊連峰をホームゲレンデとして山歩きを楽しんで来ました。

不思議なもので、登ることが辛くて、「もう金輪際登るものか」と思っている、時間が経つにつれて山々の景色やお花畑、谷を渡る風の心地よさを思うと自然にまた足が山に向いてしまうのです。

同じ山、同じ登山道を登っていても自分の気持ち、又、四季折々によって山の顔も変わってきます。燃えるようなブナの新緑に春の息吹きを感じながら、残雪の上を歩く心地よさ。夏の稜線で昼寝する解放感。深い溪谷の紅葉のすばらしさ。雪の粒手で寄せ付けない雪山。……などなど。

さらに酒という隠し味があれば申し分有りません。

人生の折り返し点を過ぎた今ふと考えてみると、これが私のストレス解消法だったのかもしれない。自然の中で遊ぶ事は無限の活力を与えてくれるように思います。

最近、山に行くことはめっきり少なくなりましたが、今度は山に限らずいろいろな土地を歩いてみたいと思います。

今、昔の山好きの先輩達と『奥の細道』紀行を辿ろうと言うことで新潟県縦断を計画しており、既に府屋~中条、弥彦~柏崎間を歩きました。芭蕉ゆかりの地を辿り、所々旧街道の面影が残る地を歩くのもいいものです。

みなさんも健康のために歩いてみませんか。

「小説と私」

④新潟県環境衛生研究所 樋口友美

最近、私は小説を読んでいる。小説が嫌いなわけではなかったが、マンガの方が好きのため、ずっと小説は読んでいなかった。そんな私が小説を読むようになったのは、友人の、「本を読まないで馬鹿になるよ。」という言葉だった。確かに、

学生時代に比べると、ずいぶん漢字が書けなくなっている。「このままでは、本当に馬鹿になってしまう。」私はそう思い、本屋に行った。

いつもなら、本屋で買うのはきまって雑誌かマンガという私。しかし、その時の私は少し違って

いた。小説を買いにきたというだけで、いつもより賢くなった気がした。

本屋では、どの本を買おうかとすごく迷った。どうせ読むならおもしろい本が読みたかったからだ。長い時間迷ったすえに、私は『アルジャーノンに花束を』を買った。この本は、以前友人から「面白いよ。」と勧められたことがあり、自分自身読んでみたいと思っていた本の中の一冊だった。しかし、期待が大きい場合にはその期待以上のものでない限り、たいていは面白くないと感じてしまうため、多少の不安を感じながら読み始めた。

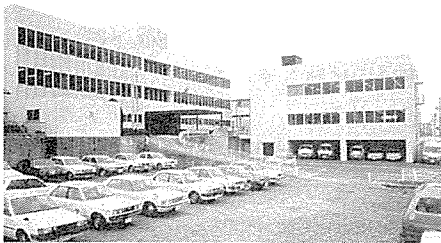
けれど、その不安はすぐに消えた。それは、期待以上に面白い本であったからです。あまりの感動に、翌日職場で、まるで保険の勧誘員か洋服屋の店員のように、この本を周囲の人に紹介する程だった。

今、私が読んでいる本は、『アルジャーノンに花束を』と同じ著者の『五番目のサリー』で、この本もなかなか面白い。小説の面白さに目覚めた私だが、根っからのマンガ好きのため、なかなか小説の方は進まない。けれど、これから先もいろいろな本を読み続けたいと思っている。

技師のひとりごと

視察研修に参加して

(財)二市北蒲原郡総合健康開発センター 山口 彰



去る11月19日～20日と1泊2日の民環協の視察研修旅行に参加してきましたので、そこで感じたことを思いつくままに書いてみました。

参加者は宮崎会長以下7名で、出発の日は秋晴れの良い天気でした。朝、新潟駅に集合し名古屋へと向かいましたが、途中静岡付近で新幹線の車中から見た富士山のすばらしさ、真っ青な空をバックにした白い山頂、“富士は日本一の山”と唄に唄われるのももっともだと思いました。

目的地は名古屋市郊外にある「財団法人 東海技術センター」です。ここは昨年、設立20周年を迎えた計量証明事業所で、総売上高10億を越える中京地区でも有数の検査機関です。業務内容は『環境計量』『環境アセスメント』が主体で、ほか

に『化学分析』『相談事業』『作業環境測定』等ですが、変わった業務として、ホテルの養殖も行っております。これは名古屋市の受託事業だそうですが、今ではホテルよりもその餌であるカワナの方に興味があるようで、いろいろとその研究も行っているようです。

この検査機関は業務にコンピューターを大幅に採用しており、検体の受付から成績書の発行、データ管理等まで有効に活用しているとのことでした。また、受付に技術系職員を配置しておくのも、依頼内容や検体の性状等についてより的確な情報が得られるので有効な方法だと思います。

分析機器に関しては古いものから新しいものまで多数ありましたが、特に10年以上も使っているのではないかとと思われるような機器が、今でも多く活躍しているのには感心しました。オートサンプラーやオートアナライザーも多く使用し、特に夜間に無人運転を行って時間を有効に使っているとのことでしたが、機器にできることは機器にやらせ技術者はその時間を知的能力や技術の向上に努めるもよし、余暇として活用するもまたよしではないでしょうか。

更に、同業者の視察であるにもかかわらず隅々まで案内し、普通は隠したがるようなことまで説

明していただきましたが、これなどは自分たちの技術に自信と誇りを持っており、他機関からクロスチェックの相手に選ばれるなど地域の中核の検査機関であるとの自負が感じられました。

視察を終えたあと宿泊地である下呂温泉へと向かい、宿の仲居さんの客を飽きさせないもてなし方に、「これもプロフェッショナルの技術だな」と妙な所で感心してしまいました。我々も技術者としてプロなんだということを常に心に留め、さらなる研鑽に努めていきたいものです。

(筆者 右から3人目)



新入会員紹介

ミヤマ(株)燕工場ミヤマ分析センター

燕工場は、『人と自然のハーモナイザー』ミヤマ株式会社の産業廃棄物中間処理工場として、1987年11月に設立されました。

当センターは、産業廃棄物を適正に処理する必要性から、1991年11月登録を行い、実際の業務は1992年1月から開始しました。

当面、対象物質を限定し、依頼検査として、密度の濃い情報をユーザーに提供してまいりたいと考えております。

この度「民環協」の一員とさせていただきますが、皆様方の御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いたします。

(石井記)

事業所所在地

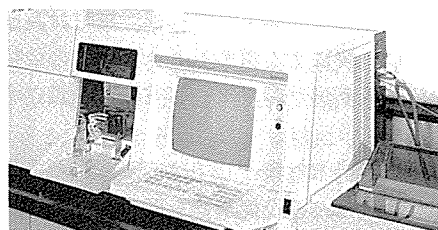
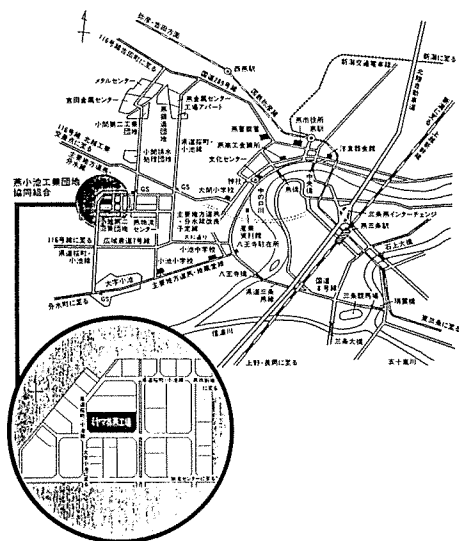
ミヤマ(株)燕工場ミヤマ分析センター

〒959-12 新潟県燕市大字小池

3663番地 1

TEL 0256 -63-6751(代)

FAX 0256 -63-9668



平成4年版 新潟県の環境(現状と対策)について

新潟県環境保健部

1 環境行政の動向と施策の方向

当県の環境の状況は、県民の理解と協力を得ながら各種の環境施策を実施してきた結果、全般的におおむね良好な状況が保たれている。

しかし、近年、環境問題は、経済問題は、経済構造の変化、生活様式の多様化・高度化等を背景に、ますます複雑化・多様化していることから、特に生活排水による水質汚濁等の日常生活に起因する都市・生活型公害への対応、大規模開発に伴う環境汚染の未然防止を図るため環境影響評価要綱の的確な運用、産業廃棄物広域最終処分場の整備に向けて体制整備、地球環境問題への地域レベルの取組等の施策を積極的に進めている。

また、現在、当県の快適な環境を保全・創造し、次世代に継承することを目指し、新潟県環境管理計画の策定を進めている。

2 重点課題への取組

3年度の重点課題への主な取組は次のとおりである。

① 3年8月から実施した「新潟県環境影響評価要綱」に基づき、要綱の対象となる開発事業については、環境影響評価準備書の審査を通じて、事業の実施に当たって、環境の保全に適切な配慮がなされるよう必要な指導を行った。

② 地球規模の環境問題に対する取組としては、国の委託を受け「地球温暖化対策地域推進モデル計画策定調査」を実施したほか、シンポジウム等の普及啓発事業を実施した。

③ 公共関与の産業廃棄物広域最終処分場等の整備を行う事業主体として、県、市町村及び、民間の共同出資による第3セクター方式の公益法人「財団法人新潟県環境保全事業団」を設立することとした。

④ 生活排水対策としては、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及促進等を図るとともに、3年

度に「せせらぎ回復事業」を創設し、きめ細かな生活排水対策の充実を図った。

また、3年4月に鳥屋野潟流域を「生活排水対策重点地域」に指定し、「鳥屋野潟水質改善計画(第二期)」と併せて、鳥屋野潟の水質改善対策を総合的に推進した。

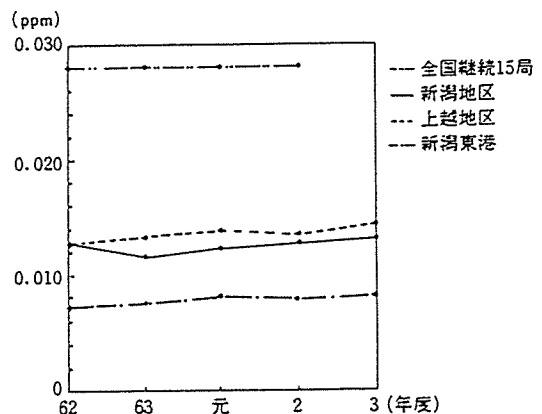
⑤ ゴルフ場事業者に対して農薬等の適正使用を図るよう指導を行うとともに、水質及び大気に係る環境監視調査を実施する等農薬に係る環境汚染対策を推進した。

3 公害の現状と対策

(1) 大気汚染

一般環境大気の状態は、二酸化硫黄については、すべての測定局で長期的評価に基づき環境規準を達成、二酸化窒素についてもすべての測定局で環境基準を達成(1局は0.04~0.06ppmのゾーン内)、浮遊粒子状物質については全測定局のうち1局を除いて長期的評価に基づく環境基準を達成する等おおむね良好な状況が維持された。(図-1)

図-1 二酸化窒素の年平均値の経年変化



なお、光化学オキシダントについては、31測定局中30測定局で環境基準を超える濃度が出現したものの、注意報を発令する状況には至らなかった。

道路沿道の大気の状態は、一酸化炭素については6測定局のすべてで、二酸化窒素については7測定局(3局はゾーン内)のすべてで環境基準を達成した。また、浮遊粒子状物質についても長期的評価に基づく環境基準を達成する等おおむね良好な状況が維持された。

大気汚染対策として、ばい煙発生施設等の監視・指導を行うとともに、スパイクタイヤ対策としては、「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律」の周知・徹底を図ったほか、「スパイクタイヤ対策基本方針」に基づく施設整備、各種調査及び啓発活動等を実施した。

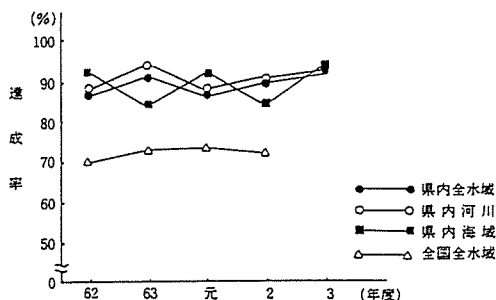
さらに、被害の未然防止の観点から広域的に取り組んでいる酸性雨調査及びアスベスト、トリクロロエチレン等についての大気管理基礎調査を実施した。

(2) 水質汚濁

公用水域の水質の状況は、健康項目については、河川115、湖沼6、海域32の計153地点のすべてで環境基準を達成した。

また、生活環境項目については、河川82水域、湖沼2水域、海域14水域で常時監視を行っており、代表的な指標であるBOD(生物化学的酸素要求量)又はCOD(化学的酸素要求量)でみると、河川6、湖沼1及び海域1水域で環境基準を達成しなかった。(図-2)

図-2 環境基準(BOD又はCOD)達成率の推移



注) 3年度の全国達成率は算計中

地下水の水質の状況については、地下水の水質測定計画等に基づき、調査した結果、評価基準を超過した地点は27地点であり、このうち、トリクロロエチレン等の有機塩素系溶剤によるものが23地点であった。汚染が確認された地点については継続的な監視を実施することにしており、トリクロロエチレン等については、一部で改善傾向が見られるものの、全体的には横ばい傾向である。

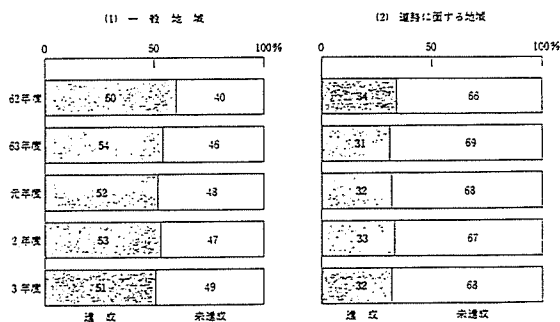
水質汚濁対策として、工場・事業場等に排水の監視・指導を行うとともに、河川水道等の河川浄化事業等を実施した。

なお、水銀関連調査の結果、阿賀野川、関川水系及び直江津地先海域とも、引き続き全測定地点で総水銀等の環境基準を達成した。

(3) 騒音・振動

環境騒音については、環境基準類型指定地域内の292地点の測定結果によれば、環境基準の達成率は、一般地域では51%、道路に面する地域では32%であり、一般地域及び道路に面する地域とも、ほぼ横ばいである。(図-3)

図-3 騒音に係る環境基準達成率の推移



高速自動車道周辺の騒音については、調査した67地点のうち、朝、昼間、夕及び夜間の4時間帯のすべてで環境基準を達成している地点は9地点(13%)であり、達成率は依然として低い状況で推移している。

また、上越新幹線による騒音については、県で継続調査を実施している17地点のうち環境基準を達成したのは、1地点にとどまり、全面達成には相当の努力を要する状況である。

こうした状況を踏まえ、県は、日本道路公団、東日本旅客鉄道㈱等の関係機関に対し、遮音壁の

設置等騒音対策の推進につき要請等を行った。

また、新潟空港周辺の空港機騒音については、継続調査している12地点のうち環境基準を達成しているのは、9地点であり、前年度に比べて2地点増加した。

(4) 県内の積雪地域では、冬期間の消雪用地下水の大量揚水を主な原因とする地盤沈下が進行している。

特に、59年冬季から3年連続の豪雪により、上越及び南魚沼地域で全国トップクラスの地盤沈下(59年度の最大沈下量は上越市西城町で10.1cm、全国第1位)を生じた。

このため、上越地域では、「上越地域地盤沈下防止対策基本指針」を策定し、国、県及び関係市町村との連携と協力の下に各種行政施策を講じている。

3年度の年間最大沈下量は、南魚沼及び長岡地域で前年度を上回ったほかは、新潟、上越及び柏崎の各地域で3cm以下と小康を保っている。なお、

南魚沼地域では、六日町が町の要綱に基づき、緊急時対策として警報の発令を2回行った。

(5) 悪臭

3年度の悪臭苦情件数は182件であり、発生源の内訳では畜産農業に係わるものが最も多く、悪臭苦情件数全体の41パーセントであった。

このため、従来から畜舎の適正管理、糞尿処理施設の設置又は糞尿の畑地への過剰投入の自粛指導、事業場の監視等を実施してきたが、今後ともこれからの指導等を推進することとしている。

4 廃棄物処理の現状と対策

(1) 一般廃棄物

一般廃棄物の処理に関しては、市町村の処理計画に基づきほぼ全県にわたって計画的な収集・処理がなされ、また、し尿・ごみの処理施設及び最終処理場についても計画的な整備がなされてきた結果、所要の処理能力等は確保されており、おおむね適正な処理がなされている。(表-1)

表-1 一般廃棄物処理施設の整備状況

区分	62		63		元		2		3	
	施設数	施設能力	施設数	施設能力	施設数	施設能力	施設数	施設能力	施設数	施設能力
し尿処理施設 (kl/日)	50	3,211	51	3,381	50	3,351	50	3,351	50	3,351
ごみ処理施設 (t/日)	51	3,254	50	3,304	50	3,380	49	3,330	47	3,345
粗大ごみ施設 (t/日)	12	360	12	360	12	370	12	370	12	358
最終処分場 〔埋立残余 容量千㎡〕	79	5,234	79	4,087	79	3,843	77	3,758	-	-

しかし、し尿・ごみの処理施設は、設置後15年以上経過している老朽施設が全国的に比べて多く、今後の計画的更新等が必要である。

また、資源化されたごみの量は着実に増加してはいるが、資源化量がごみ全体に占める割合は、3.3%に過ぎないため、今後とも市町村等と連携を図りながら減量化・資源化を積極的に推進していく必要がある。

浄化槽は、正確に維持管理を行わないと水質汚

濁の原因ともなることから、浄化槽の法定検査の実施、保守点検登録者への指導等を行い、さらに、技術管理者や浄化槽設置者への講習会等を行った。

(2) 産業廃棄物

産業廃棄物については、発生量の抑制、再生利用の拡大、中間処理の徹底及び最終処分の適正化を図るため、3年度においても、事業者に対する適正処理の監視・指導、減量化・再資源化の推進を図るとともに、県外産業廃棄物対策としては、

「新潟県県外産業廃棄物の搬入に係る事前協議等に関する要綱」に基づき、搬入・処分の計画を事前に把握して必要な指導を行ったほか、産業廃棄物処理施設の設置に関しては、「新潟県産業廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」に基づき、必要な指導を行った。

5 自然環境の現状と保全対策

(1) 自然環境保全地域等の指定

県内の優れた動植物、地形地質等の自然環境を保全するため、新潟県自然環境保全条例に基づき、「自然環境保全地域」及び「緑地環境保全地域」を指定し、その保全に努めている。

3年度は、保全事業として小松原自然環境保全地域で、木道の整備等を実施した。

(2) 自然公園の保護管理

県内には、4つの国立公園、2つの国定公園、13の県立自然公園があり、県土面積の約25%を占めている。これら自然公園地域では、公園の風政景観を維持し良好な自然環境を保つため、区域内で行われる各種行為については、一定の制限が加えられている。

3年度は、これら行為に係る480件の許認可・届出等を処理した。

(3) 温泉の現状と施策

近年のリゾート開発志向を背景として、温泉の掘削許可申請は依然として高い水準を保っており、3年度は、温泉審議会を3回開催し、26件（前年度は50件）を許可した。

このような状況を踏まえ、温泉の乱掘削による枯渇化の防止等を目的とした「温泉実態調査」を行っている。

(4) 鳥獣保護と狩猟

野性鳥獣の保護とその生息環境を保全するための鳥獣保護区については、3年度は3か所について更新等を行い、3年度末では合計79か所（119,415ha）となった。鳥獣保護対策調査としては、生息分布状況調査、ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査等を行い、また、野生傷病鳥獣の救護、有害鳥獣の駆除及び狩猟資源の確保等に努めた。

さらに、環境庁の委託によるトキ保護増殖事業を実施するとともに、国の委任を受けてトキ保護増殖事業を実施するとともに、国の委任を受けて

トキ保護センターの移転事業を3年度から2か年で実施している。

6 環境保全思想の普及啓発

元年度に造成した4億円の地域環境保全基金の運用益を増減として、環境フェアの実施等様々な普及啓発事業を実施した。また、環境月間行事、自然観察会、野鳥保護のつどい、環境美化運動、水生生物調査等一般県民の参加を得て行う事業の実施を通じて、県民の環境に関する意識啓発に努めた。さらに、「新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里」においても野生鳥獣に対する保護思想の一層の推進を図るため、様々な普及啓発事業を実施している。

7 その他の環境保全対策

その他、工場における公害防止組織の整備のため設けられている公害防止管理者等に対する指導、公害苦情の処理、中小企業者に対する公害防止施設改善資金・産業廃棄物処理施設整備資金の貸付け、衛生公害研究所における環境保全に関する各種調査研究等を行い、環境の保全に努めた。

新潟県民間環境検査機関協議会会員名簿

●正 会 員

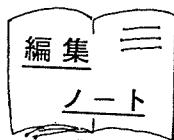
(アイウエオ順)

機 関 名	住 所	電 話 番 号
㈱クラレ中条工場分析センター	〒959-26 北蒲原郡中条町倉敷町2-28	(0254)43-2521
(社) 県 央 研 究 所	〒955 三条市吉田1411-甲	(0256)34-7072
コーポニンジニアリング㈱新潟分析センター	〒950 新潟市榎町三番地	(025)273-8176
(株) 上 越 環 境 科 学 セ ン タ ー	〒942 上越市大字下門前231番2	(0255)43-7664
電気化学工業㈱青海工場ゲンカ分析センター	〒949-03 西頸城郡青海町大字青海2209番地	(0255)62-6850
東北緑化環境保全㈱新潟支社	〒950 新潟市桃山町2丁目200	(025)274-1425
(株) 新 潟 県 環 境 衛 生 研 究 所	〒959-02 西蒲原郡吉田町東栄町8番13号	(0256)93-4509
(株) 新 潟 県 環 境 衛 生 中 央 研 究 所	〒940-21 長岡市新産2丁目12番7	(0258)46-7151
(株) 新 潟 県 環 境 分 析 セ ン タ ー	〒950 新潟市綱川原2丁目33番26号	(025)284-6500
(株) 新 潟 県 保 健 衛 生 セ ン タ ー	〒951 新潟市白山浦2丁目180-5	(025)267-8191
(社) 新 潟 県 薬 劑 師 会	〒951 新潟市関屋田町1丁目39番地 加門不動産ビル2F	(025)267-2131
(株)二市北蒲原郡総合健康開発センター	〒957 新発田市本町4丁目16番83号	(0254)24-1145
日揮化学㈱新津事業所環境測定センター	〒956 新津市滝谷本町1-26	(0250)24-3811
㈱日軽技研分析センター新潟支所	〒950-31 新潟市太郎代1572-19	(025)255-3141
(株) 日 本 気 象 協 会 新 潟 セ ン タ ー	〒950 新潟市幸西4-4-1	(025)243-4791
ミヤマ㈱燕工場ミヤマ分析センター	〒959-12 燕市大字小池3663-1	(0256)63-6751

●賛助会員

(アイウエオ順)

機 関 名	住 所	電 話 番 号
アドバンテック東洋㈱新潟営業所	〒950-21 新潟市流通センター2-3-3	(025)260-7788
池田理化学工業㈱新潟支店	〒950 新潟市上所上3-5-10	(025)285-9277
鐘 通 化 学 薬 品 ㈱	〒950 新潟市関新1-7-22	(025)231-7121
タ ケ シ ョ ー 科 学	〒950 新潟市新光町23	(025)285-0671
多 田 理 化 ㈱ 新 潟 営 業 所	〒950 新潟市鏡3-12-37	(025)243-1709
寺 井 科 学 器 械 ㈱	〒951 新潟市東中通1-186-1	(025)229-1198
㈱ 新 潟 コ ン ゴ ー	〒950 新潟市竹尾卸新町752-1	(025)275-8146
㈱ ニ チ ニ ー	〒951 新潟市川岸町2-8-2	(025)230-1111
㈱ 広 川 製 作 所	〒951 新潟市寺裏通1番町240	(025)229-2616
北 陸 工 機 ㈱	〒942 上越市中央3-14-34	(0255)43-2434
㈱ マ ル タ ケ	〒950-21 新潟市流通センター4-6-2	(025)268-6340
和 光 純 薬 工 業 ㈱	〒950 新潟市米山4-1-23	(025)241-0380



機関誌の発行が予定より遅れ、年末に原稿をお願いしました皆様は特に首を長くしてお待ちいただけたことと思います。(反省)

新年早々『皇太子妃の内定』というビックニュースがあり、今年はどんなに良い年になるのか大いに期待したいものです。

さて、今年が平成5年。昭和48年に発足した当協議会もいよいよ今年の10月で二十歳を迎えます。

20周年にふさわしい、充実した一年となるよう会員一同がんばりましょう。

(事務局)